

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 比留間 貴久

作成日 2024.03.12

【責任】

薬学部薬学科基礎薬学部門に所属し、専門である有機化学及び分析化学を中心に教育活動・研究活動を行っている。主たる教育活動は、物理系関連科目(機器分析学 I・II)及び基礎薬学実習の担当、ゼミ生の卒業研究指導、キャンプ・アウトドア同好会の顧問を行っている。

【理念】

働く時間は人生の大部分を占めていることから、有意義で学生自身が満足できるような仕事生活を送るために必要な力を養ってほしいと考えている。前職の経験から、仕事をこなすことと、主体的に仕事をするのでは仕事への取り組み方が異なる。それは、モチベーションや向上心にも大きく影響し、持続可能な仕事生活を送る上で重要と考える。主体的に取り組むためには、仕事への意欲のみならず、知識の幅、チームワークとコミュニケーションが重要となる。チームワーク、特にバックグラウンドが異なる人(例えば、医者などの医療従事者や新規プロジェクト立ち上げ時に、関わる他職種従事者)とチームで仕事をする場合、自身が携わる分野のみならず、コミュニケーションをとるための幅広い知識が必要であると考えている。

学生が社会に進出してから、常に知識をアップデートし続ける意識と、他者を巻き込むコミュニケーション力を実践できるようにサポートを努めていきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「興味を引くような授業内容の充実と学生の理解の向上」、「卒業研究を通じた論理的思考の構築と発見するワクワク感」、「学生生活の充実化」の3点を方針としてしている。

方針1「興味を引くような授業内容の充実と学生の理解の向上」

・授業の開始は、まず前回の復習から入るようにしている。前回の重要な点をまとめて伝えることで、その日の講義のつながりを関連付けて授業に臨むことができるようになるとともに、全8回の講義+補講を通じて、学生は3回同じ内容に触れられるため、知識の定着に役立つと考えている。

・機器分析学のような現場で使用する機械を取り扱う科目は、その特性上、講義の中で実際の装置に触れることは難しい。学生には装置の原理・概要のみならず実際に現場で使用されている装置についても理解を深めてほしいと考えている。そこで、スライドには機器の写真を可能な限り用いるようにし、また使用現場での自身の経験を合わせて説明することで装置構造や具体的な実施例の理解に役立てている。

・授業後、また単元毎に演習や小テストを実施し、知識の定着を促している。

・授業スライドは薬剤師国家試験のための復習やその後の就職先によっては活用可能な専門的な内容(テクニック等)も盛り込んでおり、メモとしても活用できるように工夫している。

方針2「卒業研究を通じた論理的思考の構築と発見するワクワク感」

・卒業研究では、実際に手を動かして実験をしてもらっている。これにより、自らの実験

操作で未知の結果が得られるということを実感して欲しい。そして、新しく発見するというワクワク感を感じて欲しいと考えている。

- ・実験を進めていく上では、自身のこれまでの知識だけではどうにもならない部分だけである。そのため、指導教員とのディスカッションや、同じ研究グループ内にて共同で実験を進める研究のメンバーとチームで作業を行えるよう促していくことにも、力を入れている。

方針3「学生生活の充実化」

- ・学内のキャンプ・アウトドア同好会の顧問として、安全かつ健全に活動を行えるよう、指導している。

- ・学生が同好会を作り上げる（運営する）ことは、チームワークとコミュニケーションの向上につながることから、運営や方針についても学生の主体性を損なわない程度に助言をするようにしている。

【成果・評価】

- ・授業のスライドがわかりやすいとの評価を学生から得た。
- ・振り返りテスト、小テスト等により理解が深まったとの学生からコメントを得た。
- ・キャンプ・アウトドア同好会ではニセコ山荘での学外活動を安全に行うことができた。

【目標】

- ・短期的には、充実した学生生活を送り、授業、卒業研究を通じて、事象を分子レベルで解釈し、結果とエビデンスに基づいたサイエンス的な思考を身に付けられるよう教育活動を実施したい。

- ・長期的には、考えることが楽しくなる、常に自分をアップデートできる人材を育てられる教育内容を目指す。